



# TOYAMA INSTITUTE OF GLASS ART 2026

Glass  
Certification Studies  
Program

Advanced  
Research Studies  
Program

世界とつながる  
プロフェッショナルを、  
富山から。



富山ガラス造形研究所



富山ガラス造形研究所  
Toyama Institute of Glass Art

〒930-0143  
富山県富山市西金屋 80 番地  
TEL 076-436-2973 FAX 076-436-2974



Website  
<https://toyamaglass.ac.jp>



Instagram  
@tiga\_glass



YouTube  
toyamainstituteofglassart7418



## 日本屈指の充実した環境で学ぶ

所長 本郷 仁

富山市は「ガラスの街とやま」を施策の一つに掲げ、ガラス文化の振興を通じたまちづくりを進めてきました。その中で、人材育成を目的として1991年に設立されたのが富山ガラス造形研究所です。本校は今年で開校36年目を迎え、国内外でガラス作家や教育者として活躍する多くの卒業生を輩出してきました。

本校では、経験豊かな教授陣による指導と充実した設備環境のもと、ガラス芸術を専門的かつ実践的に学ぶことができます。さらに、外国人教員による国際的な教育や海外芸術大学との交換留学、著名作家によるワークショップなどを通して、世界とつながる多彩な学びの機会を提供しています。私たちは、学生一人ひとりが感性と創造力を磨き、自らの表現を育んでいけるよう支援しています。



## 可能性を広げる新たな実践的カリキュラム

主任教授 中神 牧子

荘厳な立山連峰に守られ水や田畑、植物の緑、冬には真っ白な雪景色という自然豊かで美しい富山という場所でガラスを学び、隣接する富山ガラス工房では多くのガラス作家が制作を行い、富山市ガラス美術館では定期的にガラスの企画展が行われています。そのような環境で、充実した教授陣また助手のもと、様々な学びを通して自分自身と向き合いガラスという素材を知り、体感し、新たな自分自身や素材の可能性を見つけしていきます。

研究所へ入学してくる学生たちは年齢もバックグラウンドも様々ですがガラスに惹かれ、もっとガラスのことを知りたい、制作したい、という気持ちでここに来ます。この2年間で、技術だけでなく発想力、作品を展開していく力を身につけ最終的には富山市ガラス美術館で卒業制作展を行います。みんなでガラス表現の可能性を広げていきましょう。



デッサン・デザイン等の基礎の造形教育を重視し、ガラス造形に必要な基礎的な理論及び技法を学習します。個性・創造性を伸ばすことを主眼に、選択科目の中で自主的な制作を通して多彩な表現力や造形力を養います。

### 造形科1年生の授業

#### ホットワーク I | HOTWORK I

担当：宮本 崇輝 Takaki Miyamoto  
中神 牧子 Makiko Nakagami

ホットワークに必要な基本的な技術を学びます。竿の持ち方から、どのように溶けたガラスを巻いて成形していくか、また共同制作を通じて、技術の習得と向上に取り組みます。さらに課題を通して個々のアイデアを反映していきます。

#### フレームワーク I | FLAMEWORK I

担当：小曾川 瑠那 Runa Kosogawa

フレームワークは、酸素バーナーで耐熱ガラスを加工する技法です。1年次はストリンガーワーク(ケンワーク)、管ガラス、色ガラスの使い方など、基本的な技術と機材の知識を習得します。課題を通してアイデアのアウトプット方法や他技法の併用について学ぶことで、素材に対する理解度と探求心を深めていきます。

#### キルンワーク I | KILNWORK I

担当：松藤 孝一 Koichi Matsufuji

キルンワークとは電気炉でガラスを成形する作業のことを言います。キャストリング、パート・ド・ヴェール、フュージング、スランピングなど、キルンワークの基本的な技法を習得しながら、素材としてのガラスを学ぶことになります。後半では、前期に学んだ素材や技術をベースに、キルンワークでの新たな表現手法を探し始めます。

#### コールドワーク I | COLDWORK I

担当：イーリ・スヒー Jiri Suchy

研磨やカット、サンドブラストや接着などコールドワークの基礎技術について幅広く学んでいきます。担当教員と話し合いを重ねながら、与えられたテーマについて深く考え、コンセプトを作り、コールドクラスや他の教科で習得した技術を組み合わせ、制作を進めていきます。



基礎的な  
造形力を養う





## 造形科2年生の授業

### ホットワーク II | HOTWORK II

担当: ディラン・パルマ Dylan Palmer  
宮本 崇輝 Takaki Miyamoto

ホットワークの基礎的な技術をさらに高め、実験的な作品制作を行うなど、それぞれの興味や関心に応じてアイデアを発展させ、新しい発見を促すことを目的に課題を組み立てています。また作品展示のためのサイズ感や最終形も踏まえたスケジュールを意識していきます。さらにリサーチを通して見識を広めていきます。

### フレームワーク II | FLAMEWORK II

担当: 小曾川 瑠那 Runa Kosogawa

1年次で学んだことをベースにそれぞれが関心のある分野のリサーチや実験を自主的に取り組めるよう促します。卒業制作を意識した課題を通して、自分に適したサイズ感、作品の出力の幅を広げる方法、展示方法、オリジナリティについて深めていきます。視野を広げ柔軟な思考方法を身につけられるようグループディスカッションも行います。授業の後半では卒業後の活動を見据えて一歩踏み込んだ機材の知識を共有します。

※2年次はホットワークまたはフレームワークのどちらかを選択することになります。

### キルンワーク II | KILNWORK II

担当: 松藤 孝一 Koichi Matsufuji

初年度で学んだキルンワークの技法やガラスの特質をもとに、自作品のオリジナリティを追求していきます。半期の研究のほか、グループディスカッションやアーティスト・ステイトメントなどを通して、様々な角度からガラスの作品化を目指します。最終的に、研究発表として学外での展示を行います。

### コールドワーク II | COLDWORK II

担当: イーリ・スヒー Jiri Suchy

ウォーターサンダーや独自のツールを使用した共摺りなどの応用技術を学び、様々な表面加工を習得、また酸洗い加工による表現の違いも学習します。各自のテーマに沿って好みの技法を用いて制作していきながら、学外でのコールドクラス展へ向けて、より専門的な技術とコンセプトを深めた作品制作を目標とします。

※2年次はキルンワークまたはコールドワークのどちらかを選択することになります。

多彩な表現力を  
身につける

## 造形科2年間の中で修得する科目

### 基礎造形 | FOUNDATION

担当: 平面 / NAO

人は本来、表現することに喜びを感じます。幼い頃、夢中で絵を描いていたように。あなたから生まれるありのままの線と一緒に感じ、心のままに描く時間にしましょう。

担当: 立体 / 渡辺 愛 Mana Watanabe

想像や思考を、素材を用い制作する過程において基盤となるのはリサーチ力や観察です。ガラス造形に繋がる立体的造作や表現力を塑像による基礎的な視点、技術を通して高めます。

### 造形演習 | ART PRACTICE

担当: 佐々木 類 Rui Sasaki

2年次前期の授業で、作品制作に関することについて総合的に学びます。素材を知ること、ものを作ることから始まり、制作アイデアの展開や作品の展示方法など、制作に関する様々な要素について実践的に学習します。

### ガラス材料学 | GLASS MATERIALS

担当: 吉野 徹 Toru Yoshino

材料学の視点から物質としてのガラスの性質を学びます。「ガラスとは何か」という根本的な疑問から建材や工業製品のガラスに至るまで、最古の人工材料と言われるガラスの特性や魅力に対し科学的に迫ります。

※隔年の開講になります。

### ガラス工芸史 | HISTORY OF GLASS ART

担当: 土田 ルリ子 Ruriko Tsuchida

ガラスの起源から現代ガラスまで、幅広くガラスの歴史を学びます。時代を切り開く斬新な発想や、それを支える技術の展開をたどり、現代の作り手に繋がる制作の歴史的背景について考察します。

※隔年の開講になります。



学生自身の制作スタイルで、日々、研究を進めていきます。  
 月1回の全教員による制作過程のチェックを通して、  
 プロとしてのオリジナリティの確立を目指すための  
 新たな視点を持ち、可能性を広げていくことができます。  
 さらに、渋谷良治顧問による個別指導も行い、  
 各自の研究と制作をサポートします。

## 研究科の授業

### プロフェッショナルアート演習 I

PROFESSIONAL ART PRACTICE I

担当：宮永 愛子 (現代美術作家) Aiko Miyanaga

ガラスの専門家とは違う視点で学生たちと対話をし、演習を行います。学生が自身を知ること、また作品づくりのコンセプトの向き合い方をステップをふみながら養っていきます。

### プロフェッショナルアート演習 II

PROFESSIONAL ART PRACTICE II

担当：山本 浩貴 (文化研究者) Hiroki Yamamoto

この演習では、プロフェッショナルの作家として活動するために必要な言語化の能力を養います。そのためにアーティスト・ステートメントの書き方を習得し、近現代の美術・工芸史を通覧します。

### 研究制作 I・II | RESEARCH I・II

1年次は、担当教員の指導、助言を得ながら各自研究テーマを設定し、立案した研究計画に基づいて制作します。6名の教員による作品講評を定期的に行い、アイデアの展開と表現力の向上を図ります。

### 修了制作 I・II | GRADUATION WORK I・II

2年次には作品のオリジナリティをより深め、修了制作へと進んでいきます。学生1名に対して1名の教員がチューターとしてアドバイスをし、各自が自分自身で制作を進めていきます。前期から終了制作を意識して取り組みます。



作家としての  
 オリジナリティの確立





ジャック・ワックス氏によるワークショップ



長野史子氏による特別講義



野田怜真氏による特別講義



2025年度卒業制作展講評会

## 全学共通の学びと制度

### ワークショップ | WORKSHOPS

年2回、国内外の著名なアーティストと制作する1週間

幅広い視野とグローバルな技術や考え方を身につけるために、国内外で活躍している著名作家を招聘して、春と秋に1週間のワークショップを行っています。ガラスに限らず多様な分野で活躍している作家と触れられる、貴重な機会になっています。

[令和7年度 ワークショップ講師]  
小出 ナオキ (美術作家)  
ジャック・ワックス (ガラス作家)

### 特別講義 | SPECIAL LECTURES

様々な分野のアーティストによる特別講義

見聞を広げる目的で開講する特別講義は、現代アート、建築、彫刻、デザイン、陶芸等、ガラス以外にも様々な分野で活躍されている方を招き、2時間程のスライドレクチャーを行っています。通常の授業では補うことのできないガラスの各種技法や、新しい表現方法、当研究所の卒業生の活動等も、この講義を通して紹介します。

[令和7年度 特別講義講師]  
南山 紘輝 (株式会社アルカコウキCEO、南山教育研究所所長、脳科学×コーチング研究者)  
松村 潔 (フレームワーク作家)  
小寺 暁洋 (吹きガラス作家)  
空耳カメラ (写真家)  
長野 史子 (ガラス作家)  
ロバート・ルイス (ガラス作家)  
野田 怜真 (漆芸作家)  
竹内 大佑 (ランプワーク作家)  
泉 秀明 (富山大学技術専門職員)

### 講評会 | CRITIQUES

特別講師を招いて真剣な講評会

前期と後期の締め括り、そして卒業制作展の講評会に、当研究所6名の教員の他、外部より特別講師を招き、講評をしていただきます。この講評会では、いろいろな意見をいただき、次の作品制作に向けての指標にしていきます。

[令和7年度 講評会講師]  
勝川 夏樹 (筑波大学芸術系助教)  
大西 伸明 (現代美術作家)  
マルテル 坂本牧子 (兵庫陶芸美術館学芸員課長補佐)  
小出 ナオキ (美術作家)  
水野 雅文 (CCC/土から生える実行委員長、新町ビル 地想オーナー)  
加藤 尚子 (女子美術大学准教授)  
浅田 真帆 (富山市ガラス美術館主任学芸員)

各分野の  
現役アーティストから学ぶ

### アーティスト・イン・レジデンス

| ARTIST IN RESIDENCE

国内外で活動するガラス作家の中から、毎年1名の滞在作家が選出され、その作家が約1ヶ月半富山に滞在し作品を制作します。期間中、公開講座や学生を対象とした講義や実演を行いながら、地域や学生との交流を図ります。期間終了時には富山市ガラス美術館で成果発表を行います。富山の自然豊かな環境の中で制作に取り組む事ができ、その成果は滞在期間終了後も作品を通して残っていきます。



ガラス作家のロバート・ルイス氏によるアーティスト・イン・レジデンス

### 卒業制作展 | GRADUATION EXHIBITION

平成27年度より、卒業制作展を富山市ガラス美術館で行なっています。学生は、2年間の集大成として、ガラス作品を展示します。毎年、展示作品の中から優秀賞や特別審査員賞などが与えられます。令和元年度からは、卒業制作展記念講演会を開催し、昨年度は、「CCC/土から生える」実行委員長及び新町ビル地想オーナーの水野雅文氏、美術作家の小出ナオキ氏を招き、講評会と特別レクチャーを行いました。9日間の展示期間に約10,400名の方がご来場されました。

### 校外学習 | FIELD TRIPS

それぞれの学年やクラスで、様々な専門分野の展示会や工房などを見学します。

### 学外展示授業 | EXHIBITIONS

授業の一環として、学生主体で展示会の企画から展示作業までを学びます。この経験が、卒業後の作家活動の手助けになります。

### 地域連携授業 | REGIONAL ACTIVITIES

平成30年度に、スタジोजブリと富山ガラス造形研究所の学生や教員が、富山市ガラス美術館展覧会「ジブリの大博覧会」のガラス作品(灯籠)を共同で制作しました。

### 研究生制度 | VISITING SCHOLAR PROGRAM

リサーチ・スタディー(研究生)は1年、6ヶ月、3ヶ月の中から期間を選択し、ガラス制作の研究を行うことができます。出願資格は当研究所研究科を卒業した方、またはこれと同等でガラス作家として2年以上の経験の有する方になります。

※年度によっては募集していないこともあります。

### 交換留学制度 | OVERSEAS EXCHANGE PROGRAM

提携大学の協力により、交換留学制度を設けています。選ばれた学生は、約3ヶ月間、海外でガラスを学ぶことができます。

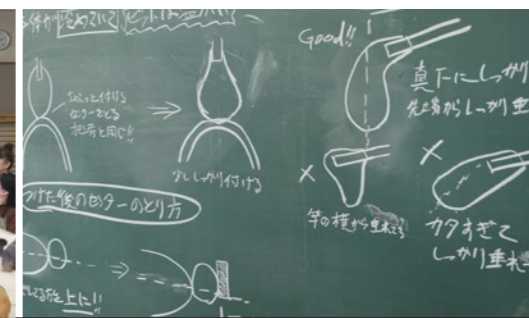
※年度によっては募集していないこともあります。

提携大学	オーストラリア国立大学 (オーストラリア) ブラハ美術建築デザイン大学 (チェコ) ヘリットリートフェルト大学 (オランダ) リベレッツ工科大学 (チェコ)
------	---

### 海外研修助成金 | SCHOLARSHIPS

海外では、数多くの短期ワークショップが毎年開催されます。学生は、夏休みを活用してそのワークショップに参加することができます。選ばれた学生は、提携校から助成金を得て、海外でガラスを学ぶことも可能です。

提携機関	アーバンガラス (アメリカ) コーニングガラス美術館 (アメリカ) ビルチャックガラス学校 (アメリカ) ヘイスタックマウンテン工芸学校 (アメリカ)
------	--



# 教員

## Faculty

富山ガラス造形研究所は、42名の学生に対して、常時2名の外国人を含む6名の経験豊富で国際性豊かな教員と7名の非常勤講師、そして特別講師、顧問が指導を行っています。また、それぞれの教員は作家としても活動し、国内外で活躍しています。学生は、その指導やアドバイスを受けると同時に、制作過程なども身近に見て勉強ができる環境が整っています。

海外講師を交えた、各ジャンルのプロフェッショナルが指導



**主任教授 中神 牧子 Makiko Nakagami**  
担当：ホットワーク  
1994 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業  
1999 金沢卯辰山工芸工房研修者修了



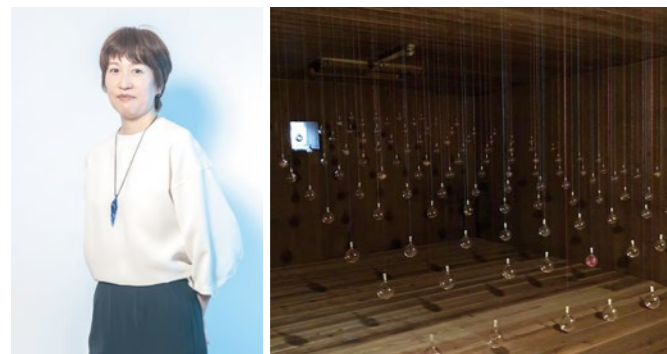
**教授 松藤 孝一 Koichi Matsufuji**  
担当：キルンワーク  
1995 愛知教育大学総合造形ガラスコース卒業  
2001 イリノイ州立大学美術学部修士課程修了(アメリカ)



**准教授 イーリ・スヒー Jiri Suchy**  
担当：コールドワーク  
1991 High Glass School, Nový Bor (チェコ)  
2000 MgA. Academy of Arts, Architecture and Design, Prague (チェコ)



**准教授 デイラン・パルマ Dylan Palmer**  
担当：ホットワーク  
2000 Bachelor of Fine Arts, Illinois State University (アメリカ)  
2005 Master of Fine Arts, Rhode Island School of Design (アメリカ)



**講師 小曾川 瑠那 Runa Kosogawa**  
担当：フレームワーク  
2002 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科プラスチックコース卒業  
2008 富山ガラス造形研究所研究科修了



**講師 宮本 崇輝 Takaki Miyamoto**  
担当：ホットワーク  
2010 多摩美術大学工芸学科卒業  
2016 Møhl & Drivsholm Glas (デンマーク)

# 助手

## Teaching Assistants

常時6名の助手が担当の授業で学生の制作をサポートし、学生により近い目線で授業の指導も行っています。それぞれの助手が作家として、国内外で活動しており、若手作家として世界に羽ばたいています。学生は、卒業後の活動を身近に知ることができます。

### 顧問

**渋谷 良治**  
(ガラス造形作家、富山市ガラス美術館顧問)

### 非常勤講師

基礎造形 平面 **NAO**  
基礎造形 立体 **渡辺 愛 Mana Watanabe**  
造形演習 **佐々木 類 Rui Sasaki**  
ガラス材料学 **吉野 徹 Toru Yoshino**  
ガラス工芸史 **土田 ルリ子 Ruriko Tsuchida**  
プロフェッショナルアート演習I **宮永 愛子 Aiko Miyanaga**  
プロフェッショナルアート演習II **山本 浩貴 Hiroki Yamamoto**



**橋本 亜紗 Asa Hashimoto**  
担当：通訳、アーティスト・イン・レジデンス事業  
2001 パーソンズスクールオブデザインファインアート科卒業(アメリカ)  
2018 富山ガラス造形研究所造形科卒業



**上原田 梓 Azusa Ueharada**  
担当：ホットワーク  
2023 多摩美術大学工芸学科卒業  
2025 富山ガラス造形研究所研究科修了



**松尾 里奈 Rina Matsuo**  
担当：フレームワーク  
2016 東京ガラス工芸研究所総合応用科卒業  
2019 富山ガラス造形研究所研究科修了



**山本 直 Tadashi Yamamoto**  
担当：コールドワーク  
2011 愛知教育大学造形文化コース卒業  
2018 多摩美術大学工芸学科ガラス研究室助手(～2020)



**横山 海渡 Kaito Yokoyama**  
担当：ホットワーク  
2014 大阪芸術大学工芸学科ガラス工芸コース卒業  
2017 富山ガラス造形研究所研究科修了



**西山 尚志 Takashi Nishiyama**  
担当：キルンワーク  
2024 多摩美術大学工芸学科卒業  
2026 多摩美術大学工芸学科修士課程修了

## 恵まれた環境で刺激を受け、制作に向き合う

### 入学したきっかけは

中学生の頃、松島の藤田喬平ガラス美術館を訪れたことをきっかけに、ガラスに興味を持ちました。高校卒業後の進路に悩む中で、先輩からガラス作家の個展案内をいただき、富山にガラスの学校があることを知りました。そこで募集していた「夢のコップ大賞」に応募した際に自分のデザインが選ばれ、実際にガラス作品として形になったものを目にし、大きな感動を覚えました。また、東京都にあるチームラボでの体験を通して、空間や五感に働きかける表現にも強く惹かれました。そうした経験から、ガラスで空間そのものを表現してみたいと考え、入学を決意しました。

### 研究所に入って

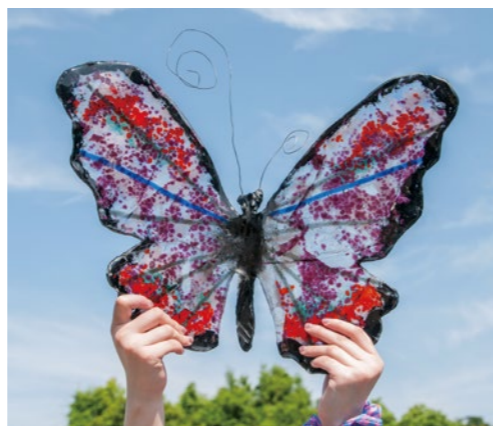
研究所にはさまざまな背景を持つ人が集まり、日々多くの刺激を受けながら制作に向き合っています。近年はガラスの価格が高騰しているため、アルバイトと両立しながら努力している学生も少なくありません。隣のガラス工房でアルバイトができ、現場を経験しながら学べることも魅力の一つです。掃除の時間が多く設けられていることで道具の管理も徹底されており、設備環境も充実しています。そして、制作で悩んだときには、先生方が丁寧にサポートして下さいます。研究所の隣には動物園があり、緑豊かな環境や周囲の飲食店で、課題に追われる中でもリフレッシュすることができます。ここでの学びを通して表現の可能性が広がり、ガラスという素材の自由さと、非常に恵まれた環境を実感しています。

### 将来の夢

私の夢は、作品や表現を通して自然と笑顔が生まれる瞬間をつくり出すことです。視覚だけでなく、音や光、質感など五感すべてに働きかけ、空間そのものを“体験”へと変えていく。そうした記憶に残り続ける場を生み出し、これまで支えてくれた家族や友人、周りの方々に恩返しができる生き方をしながら、誰かのときめきになれる存在でありたいです。



造形科2年生  
千葉ひなの Hinano Chiba



2021年研究科修了  
岩本 悠里 Yuri Iwamoto



追憶

## 在学中から作家活動はじめる

北欧デザインに憧れて美大に入学し、大学2年生次にガラス専攻を選びました。光を体に湛えながら形が立ち上がる時、色をのせたガラスが様々なテクスチャをつくる時、想像力をどんどん掻き立ててくれました。ひと課題ごとにガラスに夢中になっていったことを覚えています。

大学4年生の頃に、フィンランドのAalto大学の大学院に交換留学し、憧れの北欧で1年間デザインを学びました。学びのなかで、プロダクトよりもユニークピースに強く惹かれていき「もっと自由にガラスで造形できるようになりたい!」と思い、帰国後に富山ガラス造形研究所の研究科に入学しました。

TIGAでの日々はとても刺激的でした。ガラス愛にあふれる仲間、先生、スタッフに支えられながら制作に向き合った2年間は、あっという間でした。ガラス造形の技術も、知識も、情熱も、ここに集まっていると日々感じました。ワークショップや講評会の講師陣もびっくりするようなスターばかりで、そこで生まれたご縁に卒業後も助けられています。

自身の造形の世界観と技術が良い形で出会えたので、在学中から作家活動をはじめることができました。卒業後はそのまま隣接する富山ガラス工房創作工房(レンタル工房)を使用して制作を続けています。ブランドとのコラボワークや、アート文脈での個展など、ジャンルを横断的に活動しています。これまでガラスというメディアが介在してこなかった領域にも、新しい提案をしていきたいと考えています。

### 経歴

- 1993 埼玉県生まれ
- 2016-2017 アールト大学大学院(フィンランド/ヘルシンキ) product and spatial design 学科へ交換留学
- 2018 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科ガラス専攻卒業
- 2021 富山ガラス造形研究所研究科修了

## 卒業生の声

### Alumni Voice

## 卒業後の進路

### Activity after TIGA

富山ガラス造形研究所は、全国で初めての公立の教育機関として1991年4月に開校しました。これまで送り出した多くの卒業生は、ガラス造形作家として市内はもとより国内外で活躍し、日本のガラス芸術の発展に寄与しています。2025年度卒業生の進路は、美術大学に編入2名、金沢卯辰山工芸工房研修者1名、瀬戸市新世紀工芸館研修生1名のほか、国内のガラス工房やガラス関連会社に8名が就職するなど、多くの卒業生がガラス関係の道に進んでいます。

#### ○過去5年間の主な進学先及び研修先

- 富山ガラス造形研究所研究科
- 金沢卯辰山工芸工房(研修者)
- 瀬戸市新世紀工芸館(研修生)
- 多摩美術大学美術学部工芸学科編入
- 武蔵野美術大学芸術学部工芸工業デザイン科編入
- 大阪芸術大学工芸学科編入
- 多治見市陶磁器意匠研究所

#### ○過去5年間の主な就職先

- 富山ガラス造形研究所(助手)
- 多摩美術大学ガラス研究室(副手)
- 京都芸術大学(副手)
- 大阪芸術大学短期大学部(非常勤副手)
- 富山ガラス工房
- 軽井沢ガラス工房
- 小樽イルボンテ
- 株式会社黒壁
- 金津創作の森ガラス工房
- 新島ガラスアートセンター
- なかむらガラス工房
- 箱根ガラスの森美術館
- 株式会社深川硝子工芸
- 森の国ガラス工房
- studio iiro
- fresco
- 株式会社マサズ
- 株式会社藤プラスト
- Soneva Fushi Glass Studio(モルディブ)

## 設置学科

造形科	修業年限 2年 / 入学定員 16名 入学資格 高等学校卒業生及び卒業見込みの者、又はこれと同等以上の学力があると認められる者。
研究科	修業年限 2年 / 入学定員 5名 入学資格 当研究所造形科を卒業した者、又はこれと同等以上の知識、技能を有すると認められる者。 (※美術系の大学を卒業した者など)

## 入学者の選抜方法(令和8年度)

造形科	平面・立体実技試験/面接試験 ※推薦入試はポートフォリオによる作品審査/面接試験 ※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。
研究科	ポートフォリオによる作品審査/面接試験 ※日程など詳細は学生募集要項をご確認ください。

## 授業料等 ※令和8年4月1日現在

入学検査料	18,000円
入学科	富山市内居住者: 135,300円 その他の者: 169,200円
授業料	390,000円(年額)

\*奨学金制度(日本学生支援機構等)あり  
\*授業料減免制度あり



- 当研究所は、学校教育法第130条第2項の規定により認可を受けた富山市が設置した専修学校です。
- 学生募集要項や入学願書は、320円分の切手を貼付の上、住所・氏名を記入した角2号の返信用封筒を同封して本研究所へ請求してください。

## ガラスの街とやま

富山市は、ガラスの街づくりに取り組んでいます。詳しくは、富山市ホームページ内「ガラスの街とやま」をご覧ください。  
<https://www.city.toyama.lg.jp/>

富山ガラス工房 <https://www.toyama-garasukobo.jp/>

富山市ガラス美術館 <https://toyama-glass-art-museum.jp/>